

2025「ことばの森教室」第1回優秀作品紹介

< 中学校1年生 > 作文課題「私の強み」

1－① 「強い探求心」

私の長所は、物事を深く掘り下げる、強い探求心があることです。

私は数学が好きです。特に、難しい問題に興味があります。私は、教科書やワークの問題だけではなく、高校入試に出された難問を解いたり、予習をしたりしました。難しい問題を解くのにやりがいを感じていました。すると、難しい問題や長い式を解くのが前よりずっと速くなりました。さらに、中間テストで、とても高い点数を取ることができました。とてもうれしかったです。ここまで頑張れたのは、私に強い探求心があったからだと思います。この時、これは自分の長所だと思いました。

この強い探求心を自分の苦手なことなどにも生かしたいです。興味を持って続ければ、少しずつできるようになると思うので、積極的に取り組んでいきたいです。

1－② 「やるぞ！！」

「やばい」そう思うことが多くなってきた中学生。私はこの思いを安心に変えたくて、努力してこう思った。

中間テストの前、ワークの問題をやると、自分で解けない問題が結構あり、このままではテストは無理だと感じた。そこで私は、勉強する時間を増やすために、朝も早く起きてやることを決めた。そのために、夜は早めに寝たり、アラームをかけたり、色々な工夫をした。それを始めて1週間、毎日朝に勉強することができた。私はその時自分で決めたことはやる、守るということができているなと感じた。

自分で決めて、実行するこれができるから、「やばい」を「安心」に変えることができ、テストで

も良い結果が出たと思う。これから、テストの時だけでなく、「やばい」と思う前に計画を立てて、実行できるようにしたい。

1－③ 「目指せスピードスター」

四時間目の終わりを告げるチャイムが鳴る。私は、まっさきにコンテナ用のぞうきんを手にとった。その日は準備の当番の日。ぞうきんをぬらし、コンテナをふく。それにかかる時間は、たったの十秒程度だ。これを速く終わらせることで、支度を速く終わらせられるのだ。こうした出来事から、「自称スピードスター」だと思っている。

しかし、これだけではない。実は足も速い。これが一番の武器だ。その速さは陸上のリレーでアンカーを任されるほどのものだった。

これらのことを将来に生かしていきたい。私の将来の夢は医者。この仕事では、すばやい状況判断が必要である。例えば、もし手術をしているとして、予想外のことが起きてしまったらどうするか、その場でちんたら考えているのではなく、すばやく判断するだろう。そして、いずれかこの「自称」がとれて、本当の「スピードスター」と呼ばれたい。

1－④ 「好奇心旺盛という強みを活かして」

せみの声が響き渡る3年前の初夏、田んぼのあぜ道で1匹のカエルと目が合った。その小さな生き物は、一瞬で私の心をつかんで離さなかった。

私は絵を描くことが好きで、時間があればスケッチブックに身のまわりのものを描いている。その日も、カエルの姿を絵にしてみようと思い、じっくりと観察を始めた。すると、小さな指の形や皮膚のザラザラした感じなど、これまで気づかなかった発見がたくさんあった。観察すること自体が楽し

くなり、その記録を自由研究としてまとめ、発表することにした。

絵を描くという好きなことから始まったが、これをきっかけに、観察力や表現力も伸びたと感じた。夢中になれることがあると、そこから更に興味や関心が広がり、自分の可能性も大きくふくらんでいくのだと思った。これからも、自分の好きなことを大切にしながら、様々なことに挑戦していきたい。

< 中学校 2 年生 > 作文課題「最近のニュースから」

* 該当作品なし

< 中学校 3 年生 > 作文課題「中学校で頑張ったこと」

3 - ① 「グッドバイ・ミー ハロー・ニュー・ミー」

「〇〇って、変わったよね。」と友達に言われた。その言葉が、たとえ嘘だとしても私は嬉しかった。私が中学校で頑張ったことは、自分を変えることだ。

さて、自分を変えるといっても、そう簡単ではない。染みついてしまった癖を直す、少しでも自分を出してみる。これらは、人と関わることが大苦手な私にとって、非常に難しいことだった。そこで、無理しない程度で色んな方法を実行した。人間関係では、どんな小さなことでも会話の話題にしたり、挨拶をしたり、自分から話しに混ざりにいったりして、交流を深めた。また、自分を少しでもさらけ出せるように、肩の力を抜いて気軽に接した。その結果、以前よりも友達との距離が近くなり、冗談を言って笑い合えることも増えた。以前の自分より進歩した自分になることができたのだ。

これからは、今回の経験を心の内にとめ、大切にし、更なる進歩した自分を目指せるように、自信を持って生かし続けたいです。

3 - ② 「密かな努力は必ず誰かが認めてくれている」

「こんなにしてくれる部長、今まで出会ったことがない。」そう言われた時、私の心に衝撃が走った。

休日練習のある日、なかなか曲を上手に吹けない後輩に付きっきりで教えたり、合奏の時に手助けをしたりしていた。練習後、片づけをしている最中に私の耳に入ってきたのは、「〇〇は凄いよ。こんなに後輩思いの部長、初めて出会った。」と、先生達が話している一部始終だった。この時、これまで後輩に上手に教えられず、ずっと悩み、たくさんアドバイスを貰って色々と試してきた甲斐があったと思った。そして、毎日の練習やコンクール、コンサートなどで部長として部員を引っ張っていくことの大変さ、発言した一つひとつの言葉の重さを実感した。

このように私は、これまで一生懸命努力してきたことにより、周りの人に認められることの喜びを学んだ。これからも、途中で挫折しないで最後まで努力していこうと思った。

3－③ 「初めての部活動」

中学1年生春、私は女子ソフトテニス部に入部した。ソフトテニスをしたことがなく、部活自体も初めてで、入部した当時は「何となく楽しめればいいや」程度に思っていた。ところが、中学2年にそんな自分の考えを変える出来事が起こった。ソフトテニスの習い事を始めたのだ。そこでは、自分より上手な子がたくさんいて、とても悔しい思いをした。

そこから、ペアと一緒にたくさん試合に出たり、習い事に参加したりした。しかし、技術意外にもメンタルが大事なのだが、メンタルが弱く、なかなか良い結果を出すことが出来なかった。ところが、ペアと一緒に声をかけたり雰囲気を作ったりすることで、相手のペースに飲まれずに、今年の地区総体では団体2位という結果を残すことが出来た。

この経験を活かし、何事にも初めから本気で取り組み、自分だけで解決せず、仲間と共に支え合っ

ていきたいと思った。

3－④

「努力は裏切らない」

運動が好きな私は、中学生になってテニス部に入部した。私が中学校で頑張ったことは部活動だ。

中学2年生の時、先輩方が引退した頃、部活内での最高学年として練習をした。私は身長が高い方だったので前衛だった。大会で前衛としての役割を全うできず、勝つことができなかった。ペアの後衛には「しっかりしろよ」と少し強い口調で言われ、テニスが嫌いになりそうな時もあった。でも諦める訳にはいかなかった。何が駄目でどうすればよいかを考え、暇な時にはイメトレもした。でも、諦めたくても諦めなかった。そして迎えた最後の大会（総体）。団体戦の部で勝ち、県大会出場が決まった。諦めなかった少しの努力が、道をつくった。

諦めたらそこで終わる。これはどの場面でも同じことが言えるだろう。これからも諦めず、努力していきたいと思う。なぜなら「努力は必ず報われる」と確信できたから。

3－⑤

「夢中になった部活動」

「準優勝、〇〇中学校。」もちろん、優勝したい気持ちは強かったが、最後の総体、女子団体として3年生のみんなで県に行きたかった。だから、表彰式で名前を呼ばれた時は、素直にうれしかった。

中学校に入学して、初めて手にしたラケット。女子ソフトテニス部に入部した7名、全員がテニスをするのは初めてだった。先生や先輩達から一つひとつ丁寧に教えてもらい、とにかく一生懸命練習した。初めての公式戦は、あっという間に負けてしまった。「今思うと、初めての試合はひどかったね。」と準優勝を決めた日の夜、母に言われ、二人で笑った。入部したての頃を思えば、まさか準優勝できる日が来るなんて、きっと家族や先生、そして私達自身誰も思っていなかっただろう。

今、胸を張って、中学校で一番頑張ったことは、「部活動です」と言える。その頑張りはまだ続く。

県大会、その先で、一試合でも多く勝つことができるように。

3－⑥ 「ライバルがいたから私は強くなれた」

中学校入学から楽しみにしていた部活動。私の学校では、男女ソフトテニス部、バドミントン部、吹奏楽部があった。私はバドミントン部に入部した。

3年間で一番頑張ったのは、部活動だ。もちろん大会があるのは知っていたが、ただ楽しいものだと思っていた。大会前になると、番手戦をしたり、団体戦の組み合わせを決める。3年女子が2人しかいないことで、団体戦の組み合わせでは、もめたりした。勝ちたいからこそ自分の意見が出てくる。でも、それがかみ合わなくて大変だった。だから私は、試合前の期間が嫌いだった。もう一人の子は、ライバルだからこそ負けたくなくて、自分で体育館をかりて練習した。

今思えば、もめ合いがあったり、ライバルがいたからこそ頑張れたのかもしれない。私達は7月に最後の大会がある。絶対上に行きたいという思いから、週3で体育館をかりた。悔いがないように、最後まで頑張りたい。

3－⑦ 「あの春からの成長が」

すべての試合が終わった時、くやしい気持ちと一緒に、みんなすごくがんばったなと思った。

中学校1年の春、ソフトテニス部に入部した。初めて大会に行き、本気でプレーしている人を見て、心からカッコイイと感じた。自分もソフトテニスを習い、いつかあんな風にカッコイイプレーができるようにと、必死に頑張った。いつしか同級生の仲間みんなも習い始め、一丸となって頑張った。そして迎えた最後の大会、印象に残っていることは準優勝だ。そこで試合した相手は、前の試合で歯が立たなかった相手だった。しかし、今回はあと少しというところに追いつめられた。

全ての試合の結果は、今までで一番良いものになった。みんなで必死に頑張ったこの結果、悔

しいところもある。けど、何も知らなかったあの春から考えると、本当にすごい。これが私が3年間で頑張ったことだ。